



## バンクーバーより ～留学報告～

H14年卒 山本 正嗣

平成14年卒の山本正嗣です。2009年末に何か新しいことをやってみたいと思い立ってから準備をはじめ、大学の仕事をしながら1年半近くかかってしまいましたが、今年の8月より、カナダのバンクーバーに研究留学でやってきました。University of British Columbia (UBC)の医学部呼吸器内科学教室に所属し、James Hogg Research Centre, Institute for Heart + Lung Health (JHRC)とChan-Yeung Center for Occupational and Environmental Respiratory Disease (CCOERD)との共同研究にPostdoctoral Fellowとして参加して、2人のPIのもと研究を開始しようとしています。なんとか1か月が経って、生活もだいぶ落ち着いてきたところです。研究のテーマは気道のアレルギー性炎症をヒトの臨床検体で種々の新しい解析方法を用いて新たな病態を解明していくというものです。

仕事が軌道に乗るかどうか、英語でコミュニケーションできるか、資金がもつかどうか(ポストドクの給料は安い!)、いろいろと悩みはつきませんが、このような立

場で全く新しい環境でチャレンジするのはとても新鮮で、ありがたく思っております

バンクーバーの夏はとて過ごしやすく快適です。秋に入ると長い雨季に突入するそうで、いまのうちに日本から連れてきた愛車(自転車)でバンクーバー周辺を探検しています。呼吸器内科のブログにも少しずつ近況を載せようと思っています。また、facebookでも休日の写真などを少しずつupしていこうと思っていますので、もしよろしければ探してみてください。



## 欧州呼吸器学会(ERS)で発表しました

H15年卒 永野達也

文化12年(1815年)に83歳の杉田玄白が蘭学事始を書き上げてから約200年。阿蘭陀から学んだ西洋医学を日本で発展させた成果を発表する機会を得ました。前日に受領総代として学位記を授与され、気のゆるみがあったせいか、行きも帰りもオランダのスキポール空港で迷子になってしまい非常に心細い思いをすることになりました。当時の日本と同じく海外旅行にさえ出かけたことがなかったにもかかわらず、海外経験の豊富な先生方と日程を合わせず、安易に単身でオランダに乗り込んだのが失敗でした。

大会2日目に「Crucial role of phospholipase C in the development of asthma in mice」という

題目で発表を行いました。これは分子生物学分野の片岡徹教授の講座で昨年度から取り組ませて頂いている研究で、昨年度の研究審査会では神戸大学の中で最高得点の評価を頂きました。有難いことに呼吸器領域でこの分野の研究を継続してもよいという御許可も頂いております。学会の間にはヨーロッパ建築の教会や風車を見学し、フェルメールやゴッホといった世界的名画も鑑賞することが出来ました。

学会を通して御世話になりました先生方に深く感謝を申し上げますとともに、今回学んできたことを今後の基礎研究に活かして参りたいと思います。



### The Lung

神戸大学大学院医学研究科呼吸器内科学

電話 078(382)5846

FAX 078(382)5859

URL: [http://www.med.kobe-](http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html)

[u.ac.jp/resp/index.html](http://www.med.kobe-u.ac.jp/resp/index.html)

E-mail: [nishiy@med.kobe-u.ac.jp](mailto:nishiy@med.kobe-u.ac.jp)

(西村 善博)

肺がんから「せき」「息切れ」まで  
何でもご相談下さい!

